



吉田の清住フラワーファームで、花苗の出荷準備作業を体験。同ファームの清住代表から、農産物を生産することの喜びや農業を営むることの大変さについて学ぶ

働くことの喜びを感じる力

甲佐中1年生「農業体験学習」

農産物を生産する醍醐味（だいごみ）を体験することを通して、
農業の大切さを知り、働くことの喜びを感じる

夏に伸びる 子ども力

第4章

**農業体験で農業の大切さや
食の安全性について考える**

甲佐中学校生徒が農業実習を通して、農業の大切さと働くことの喜びを学ぶことを目的に実施される「農業体験学習」。甲佐町産業後継者育成対策協議会（宮本修治会長）が主催で8月18日（水）～19日（木）に実施され、甲佐中学校（吉田明博校長265人）の1年生11人が参加。町内の農業経営者を講師として研修を行い、農業を通して働く喜びを体験しました。

**花きの出荷作業を体験して
働く喜びと大変さを感じる**

第1日は、吉田の清住フラワーファーム（清住昇代表）で収穫および出荷作業などを体験。同ファームは、ビニールハウスのシクラメンやカーネーションなどの花きを栽培し、九州や西日本に出荷しています。

体験学習では、施設の概要説明を聞いた後、花苗をビニールに入れる出荷準備作業。消費者の手に渡る商品を、丁寧に取り扱う難しさを感じました。

作業後に、清住代表から、現在取り組んでいる生産方法や販売に関する営業活動などについて講習を受け、農業を営む喜びと大変さについて学びました。

自らの手で収穫する喜びを炭焼体験や自炊体験で知る

第1日は、同ファームでの体験学習後、井戸江峡キャンプ場へ移動。炭起こしや飯ごう炊飯などの自炊体験を行ってバーベキューを楽しみ、同場で宿泊。

第2日は、上早川のこうさダッシュ村（井藤直行代表）で、炭焼きや自炊を体験し、アイガモ農法について学習しました。

同村は、平成2年からアイガモによる米の無農薬農法に取り組んで全国に受注発送するとともに、土窯による炭焼きでの木炭の製作販売も行っています。

男子は、炭焼きでの竹炭作りに挑戦。炭窯に竹を並べて入れ、土でふたをかぶせて火を起こしました。女子は、釜を使っての炊飯に挑戦。アイガモ米のおにぎりと同村で採れた山菜を使ったおこわを作り、昼食時に無農薬の料理のおいしさを参加者全員で味わいました。

午後からは、同村のアイガモ農法の水田や炭焼きの土窯を見学した後、井藤代表からアイガモ農法への取り組みについて講話を聞き、無農薬農法と食の安全性について学びました。

上早川のこうさダッシュ村のアイガモ農法に取り組む水田を見学し、無農薬農法について学ぶ



同村の井藤代表(写真右)の指導の下、炭窯での竹炭作りに挑戦。竹の割り方、炭窯への竹の入れ方、火の起こし方などを実践する

釜を使ってアイガモ米を炊き、おにぎりを作る。昼食では囲炉裏を囲んで、自分たちで調理した無農薬食材の料理を味わう。



体験学習で農業の面白さと大変さを実感しました。

花苗の出荷体験は、作業そのものは簡単で、ガーデニングも花をきれいに並べられて面白かったけど、講話を聞いて、農業はいろいろと大変なことがあることを知りました。
ダッシュ村での自炊体験では、みんなで楽しくおにぎり作りなどができました。



米原 沙耶香さん
〔上早川二区〕

花苗作業でガーデニングを体験して、花を選んで植えるのが面白かったです。炊飯体験では、火の加減が難しかったです。お米が焦げたかなと心配したけど上手に炊けて良かったです。
農業は、自然を相手にするのでとても難しいなということが分かりました。



金柿 孝汰くん
〔辺場区〕